



2019 年 6 月 17 日

報道関係者各位

慶 應 義 塾

第 708 回三田演説会 (7/1) 「漫画家の目から見た世界」ヒサ クニヒコ 君 (漫画家)

三田演説会は慶應義塾で 1874 (明治 7) 年に始まり、2015 年 7 月に第 700 回を数えました。
7 月 1 日 (月) に第 708 回三田演説会を開催し、「漫画家の目から見た世界」と題して漫画家の
ヒサ クニヒコ 君が講演します。

つきましては、本演説会のイベント欄へのご掲載、およびご取材をよろしくお願いいたします。

1. 開催概要

(1) 日 時 : 2019 年 7 月 1 日 (月) 14 時 45 分～16 時 15 分 (開場 14 時 00 分)

(2) 講演者 : ヒサ クニヒコ (漫画家)

(3) 演 題 : 「漫画家の目から見た世界」

漫画家、特にいわゆるヒトコマ漫画を描いている漫画家は、今や絶滅危惧種に近い。生きた化石と言ってもいい。世の中に雑誌が減り、新聞も読まれなくなってくると、必然的に余裕の文化であるヒトコマ漫画は居場所を失っていった。しかし表現の自由さといったら、漫画にまさる表現手段はない。そんな漫画家の目で見た古今東西南北を、時間の許す限りお話してみようと思う。

(4) 会 場 : 慶應義塾大学 (三田キャンパス) 三田演説館
東京都港区三田 2-15-45

(5) 交 通 : JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車 (徒歩約 8 分)
都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車 (徒歩約 7 分)
都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車 (徒歩約 8 分)
<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

(6) 参 加 : 入場無料・申込不要 (定員約 140 名)

※座席は先着順です。満席の場合は立見または入場を制限させていただく可能性がございますので、ご了承ください。

2. ヒサ クニヒコ 君 プロフィール

〔略 歴〕

1944 年 東京生まれ

1966 年 慶應義塾大学法学部法律学科卒業

1972 年 文藝春秋漫画賞受賞（受賞作品『戦争—マンガ太平洋戦史』）

2018 年 産経児童出版文化賞フジテレビ賞受賞（受賞作品『世界恐竜発見地図』）

本職の漫画の傍ら、長らく TBS ラジオ「全国こども電話相談室」の回答者を務めたり、テレビ番組「新世界紀行」などのレポーターとして、ボルネオ、イースター島、南米、オーストラリア、アフリカ、内モンゴル、ポナペ島（ミクロネシア連邦）などを歴訪。25 年以上アフリカのサバンナにも通う。恐竜の発掘現場を求めて、中国、アメリカ、カナダ、タイなども探訪。またかつての戦地も機会があるたびに訪れ、漫画に反映させている。福井県の恐竜発掘には博物館設立前から協力し、福井県立恐竜博物館がオープンした時から 10 年間、NPO 法人福井恐竜博物館後援会理事長なども務める。また、公益財団法人東京動物園協会の評議員も務めている。三田評論にて「ヒサクニヒコのマンガ何でも劇場」連載中。

〔著 書〕

- ・『マンガ戦車戦史』（イカロス出版）
- ・『世界恐竜発見地図』（岩崎書店）
- ・『ことばのゆらい図鑑』①、②、③（ハッピーオウル社）
- ・『サファリへ行こう』（JTB パブリッシング）
- ・『マンガ版太平洋戦史』（サンケイ新聞社出版局）
- ・『ヒサクニヒコのおもちゃ箱』（新潮社）

ほか多数

3. 三田演説会について

三田演説会は、福澤諭吉を中心に小幡篤次郎、小泉信吉など 10 余人の義塾の先進者たちによって、演説、討論の研究錬磨の場として 1874（明治 7）年 6 月 27 日に発足し、翌年、日本最初の演説会堂である三田演説館が完成しました。スタイルや話題は変わっても、福澤諭吉の精神は時を超えて三田演説会に脈々と受け継がれています。三田演説館は 1967（昭和 42）年、国の重要文化財に指定されています。

福澤は、「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝るの法なり」（『学問のすゝめ』十二編）と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」を実践しながら、試行錯誤の末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。

また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するために用いた「演舌書」という書面に由来します。「舌」という語句は俗的であったために「説」に換えたと福澤本人が述べています。

旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

* 本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。

* ご取材に際しては、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室 澤野・栗原

TEL 03-5427-1541

FAX 03-5441-7640

Email m-pr@adst.keio.ac.jp

<https://www.keio.ac.jp/>